

平成 23 年 5 月 15 (日) 活動報告 報告者：山下

<活動内容>

- 8:30～ ミーティング
- 9:30～11:30 在宅生活者ニーズ調査 (大ヶ口地区)
- 12:00～13:00 休憩
- 13:30～16:30 在宅生活者ニーズ調査 (大ヶ口地区)
- 17:00～17:30 ミーティング (本日の活動報告、明日の予定)

<印象に残った事・感想>

今日は4人で47件の大ヶ口地区在宅生活者のお宅を訪問し、ニーズ調査(状況把握、ボウのニーズの掘り起し)を行った。訪問する中で大きく3つの不安や不満を感じ取れた。

- ① 仮設住宅に関すること。
(抽選なので入れるかどうか不安、仮設ではなく自宅にいたいなど)
- ② 物資に関すること。
(物資が平等に供給されない、物資をもらう事に負い目を感じるなど)
- ③ 自分の家族が震災で亡くなった事での絶望感や今後の不安。

(③に関する事例)

Aさん 女性 64歳

隣町の山田町で被災。夫が津波で亡くなった。大槌町では長男夫婦と子供4人が新居を構えようとしていた。長男の嫁と子供4人は今回の震災で「2度とこんな怖い思いをいたくない」と大槌町から二戸町へ転居した。大槌町の新居では現在、Aさんと長男の2人で住んでいる。Aさんは夫を亡くしてから死ぬことばかりを考えながら過ごしていたが、2ヶ月が経ち少しずつ落ち着きを取り戻している。訪問中も涙を流され不安や否定的な言動が目立った。丁寧に傾聴する事に気をつけながら、地域包括支援センターへ情報提供を行い定期的な訪問の必要性を伝えた。

訪問調査の中で、岩手弁のなまり(?)で聞き取りにくい場面が何度かあった事と地域の社会資源について把握していないので返答できない事に苦戦した。しかし今日の調査で被災者の思いを少しでも思い知る事ができ、無力ながらも今回の派遣についてのモチベーションが一段と上がった。

<明日の予定>

引き続き大槌町大ヶ口地区の在宅生活者ニーズ把握。(岩手県社協2名が明日より合流)

